

日文ひろば

教職員・在学生・卒業生等によるエッセイや近況報告を掲載します。

●タイ・Sripatum University（8月8日～9月11日）

Sripatum University は、バンコクの北部に位置する私立大学です。往復航空券、住居費、海外旅行傷害保険、国内旅費などの経費を国際交流基金に支給していただいたおかげで、諦めかけていた海外研修に参加できました。



『日文ひろば』「海外日本語教育実習奮闘記1 タイ・Sripatum University 編」はこちら

海外日本語教育実習奮闘記1 タイ・Sripatum University 編 R.M.(日本文学専攻3年)

(2010.12.06up)

私はこの夏休みの間、およそ一カ月タイのシーパトゥム大学で日本語教師のボランティアプログラムに参加した。プログラムの内容は、授業のティーチングアシスタントと学生のランゲージパートナーとして、日本語教授以外に学生との日タイ文化交流もはかった。生活はシーパトゥム大学の学生宅にホームステイである。実際に長期に渡って海外に滞在したのは初めてであった。



授業面では、自身の専門知識や教師としての力不足を実感した。ボランティアという名目であるが、実際に教育機関の授業で日本語を教えることは初めてであり、授業はうまく進行できず用意した教材も授業で生かせなかった。特に授業中

のホワイトボードの使用、絵や文字カードの使い方、動作のひとつひとつ、私の性格まで注意を受けた。指摘を受ける中で、私には教師の資質がないのではないかと悩んだこともあった。



私は、日本語教育という分野に関心があり、今回のプログラムに参加した。それまでは、日本語教育という分野では日本語教師という職業が第一だと思っていたが、プログラム終了後に、日本語教師以外にも教材を作成することで日本語教育分野の一端を担うことができるのではないかと考えた。教材の作成には現場経験が必須となるので、今後は日本語教師としての専門知識、教授力を身につけるほか、教材や教授方法の研究も進めるつもりである。



生活面では、不便さなど物理的なギャップではなく、タイの宗教観の違いや王室への意識の違いに非常に戸惑った。いたるところに祠や小さなお堂があり、手を合わせる。寺院での参拝や喜捨が日常である。あちこちに王室の写真が飾られ、映画上映前には国王の映像が流れて観客は起立しなければならない。王室の写真入りネックレスを身につける学生もおり、また現地の人々から日本の仏教や皇室についての質問も多く受けた。



私は、なぜタイの人々が仏教や王室を非常に敬うのか理解できないが、日本人が宗教や王室への意識が薄いことが理解できないと言われ、異文化間の違いによる考え方の違いを強く感じ、両文化に「なぜだろう」という疑問が後を絶たな

かった。「異文化理解」というが、実際に長期で海外に滞在することで、それが机上での知識ではなく現実の出来事として考えさせられた。

これらの経験から、私は一つの物事に対する考え方や切り口の違いを、広い視野で捉え、興味を持つようになりたい、また今後の研究や授業に対しての姿勢もそうあるべきだと考えた。

最後に、このプログラムの参加にあたり先生方を始め、共にプログラムに参加した先輩、現地の先生や OG の先輩、友人たちと多くの方に支えられて非常に意義のある一カ月を過ごすことができた。お世話になった方々に深く感謝する。

(当サイトオリジナル)

『ニュース&トピックス』「海外日本語教育実習プログラムに行ってきました」はこちら

<http://www.yasuda-u.ac.jp/ynbhp/tsushin.html#japaneseeducationpracticerep2010-1>